

# NJ 素流協 News

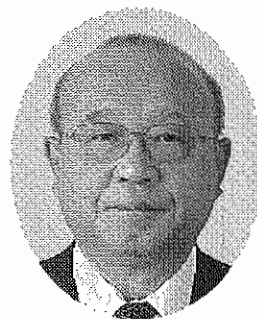
平成23年1月31日  
第73号

平成23年1月31日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館9階)  
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

## 年頭所感

ノースジャパン素材流通協同組合

理事長 下山裕司



新年明けましておめでとうございます。  
います。

平成二十三年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年中はノースジャパン素材流通協同組合の事業運営につきまして、素流協組合員及び関係機関・関係団体の皆様には格別のご指導・ご支援を賜りまして誠にありがとうございました。

本年もよろしくご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

さて、新しく迎えた平成二十三年という年は、私たち森林・林業

に関わる者にとってどのような年になるのでしょうか。私見ではありますが、わが国の森林・林業にとって大きな転機を迎える最初の年になるのではないのでしょうか。具体的には、わが国の森林・林業が大きく前進するための起点となる年、すなわち社会的、経済的、環境的等々のあらゆる面から森林・林業の重要性・有効性への認識が深まって、その実効性を追求しようとする積極的な活動を触発するような波動が沸き起こってくる年になると考えております。そのように考える理由は、一昨年十二月に公表された「森林・林業再生プラン」を元に昨年ほぼ一年かけて精力的な策定作業が進められた結果が十一月三十日に、同プランの具体化に向けた「森林・林業の再生に向けた改革の姿」という報告

書として公表されたことにあります。この「森林・林業の再生に向けた改革の姿」の内容について詳しくは述べませんが、その報告書のキヤッチフレーズが、「一〇年後に木材自給率五〇%以上」という具体的な目標数値で示されたことによつて、わが国の森林・林業に関わる者に「多大なる関心と期待」を抱かせることになりました。この報告書において木材自給率五〇%を達成するためには、森林・林業に対する基本的な考え方・姿勢としてこれまで森林造成に主眼を置いていたのを、これからは充実に途の森林資源を有効かつ適切に利用していく視点に立つて森林・林業施策を構築する必要があると断言しております。たとえば、国民の理解が得られるような実効性の高い森林計画制度の確立や施策の推進体制を構築するために国・都道府県・市町村の役割分担の明確化と地域主導的な制度を構築し、併せて各種補助事業の一元化やフォローアップ制度を創設するとしております。

この高く掲げた「木材自給率五

〇%以上”を一〇年後に現実のものとするためには、「森林・林業の再生に向けた改革の姿」に盛り込まれている各種施策の積極的な展開が不可欠であります。ここで敢えて言わせてもらえば、この目標達成のためにより一層不可欠なことは、私たち森林・林業に関係する者が、先に述べた「森林・林業にとっての大きな転機」を迎えたことを真に認識し、この時をチャンスと捉え、自らが立つという意識と気概を持って、「沸き起こってくる大きな波動」の中に飛び込んでいくことでもあります。

ノースジャパン素材流通協同組合は平成二十二年度事業計画書において、中・長期的な事業実行についての基本的な考え方として、「NJ素流協は、効率的かつ安定的な林業経営の基盤づくりを進めるとともに、森林の整備を推進する」という役割を担っており、「森林・林業再生プラン」の成否の鍵を握っていることを十分に認識し、林業生産活動を展開することとする」と述べております。今後ともNJ素流協は、中・長期的な観点から

事業の方向を見定めて目標を設定するとともに、時代の変化にも柔軟に対応しながら積極的かつ合理的な事業展開を図っていく考えであります。

一方、短期的な年度別の事業計画は、具体性・個性・実効性を具備する実施計画でなければなりません。したがって私たちは、具体的な実施計画に基づいて安定的・継続的・効率的な事業を着実に進めていくことが大切であります。すなわち、中・長期的な目標設定と具体的な年度別事業計画の合理的な組み合わせによってNJ素流協という組織の成長と継続性を確保していくことを常に認識しなければならぬと考えております。

さて、NJ素流協の平成二十二年度の事業も三ヶ月を残すところとなりましたが、これまでのところ事業計画に即して順調に事業を進めてきており、ほぼ計画に即した実行結果で終了できる見込みであります。具体的に共同販売事業は、計画量二五万m<sup>3</sup>に対し実行量は二六万m<sup>3</sup>程度になる予定であります。教育及び情報提供に関する

事業については、経営技術研修会、生産技術向上のための講習会、工場見学会を適時に実施して参加者からその有効性についての肯定的な反応を確かめておりますので、今後ともこの事業の内容充実を図ってまいります。情報提供事業については、月刊の「素流協ニュース」及び「立木公売情報」の内容充実に常に留意しているところであり組合員が期待する情報誌として進化させてまいります。また、ホームページについては、素流協ニュースの発行と連動させながら搭載情報の更新と新規情報発信に心掛けております。さらには、合法木材供給及び県産材認証に関する情報提供ならびに労働安全や生産技術向上に関する情報提供を必要に応じて随時行っております。

次に、利用拡大等に関する事業であります。この事業は、連年的に実施する経常的な事業ではなく中・長期的観点からの特定課題や突発的に発生した重大事案を解決・処理したり、開発・創造することを目指すプロジェクト的な事業であります。今年度から二つの

新規事業に着手しており、いずれも三年間で目途をつける計画であります。一つ目の素材利用拡大実証事業は、木質系バイオマスの有効利用の観点から、素材のうちのC材、D材について熱源用、おが粉用、畜産敷料など、エネルギー及びマテリアルの両面への利用拡大を目指すものであります。本年度は木質系バイオマスを熱源用、おが粉用、畜産敷料用の需要先調査を実施してまいりました。もう一つのフォレスト再生モデル実証事業

は、植栽未済地の解消を目的として、伐採―地拵え―植栽―下刈りという一連の作業群について低コスト化、簡素化を図るために連続的な作業体系を構築するための実証事業であります。具体的には、高性能林業機械等を使用して伐採作業と同時併行的に地拵え作業を実施すること、大苗やポット苗、コンテナ苗等による低密度植栽と下刈り回数削減を図ること等によって低コスト林業生産作業システムの構築を目指したモデル事業であります。本年度は、自らの伐採箇所でのフォレスト再生のモ

デル構築を希望するN J素流協組合員から一〇箇所程度の実施箇所を選定して実証的試行を行なうこととしております。

これら二つの実証事業については、それぞれ三年計画で実施する考えであります。実証データや段階的な成果等についてはその都度取りまとめて公表するとともに、その時点における成果等を組み込みながらモデル構築を漸進的に進めていく考えであります。

N J素流協として平成二十二年度の残りの三ヶ月については、着実な事業の遂行によって有終の美を飾るよう努めるとともに、新しく迎える平成二十三年事業と密接かつ有機的な継続性に意を用いる時でもあります。特に平成二十三年度は、先述した「森林・林業にとつての大きな転機」となる年、「チャンスの時」と捉えて、「沸き起こってくる大きな波動」に勇躍飛び込んでいくための周到なる準備期間でもあると考えております。

私は、新たな年・新たな年度が森林・林業にとつての波動の年であることを切望しており、N J素流協と組合員が一体となって「チャンスの時」にするように努力・邁進したいものと考えております。どうぞ日頃からご愛顧を頂いております皆様におかれましては、N J素流協に対しまして本年もよろしくお願いいたします。

組合員各位におかれましては、期待に満ちたこの年を実りある一年にするために、当組合の事業運営につきまして一層のご指導・ご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、新しい年が皆様にとりまして幸多き一年でありますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

【訂正】第七二号三頁「丸太受入検査実施報告」の中でホクヨープライウッド(株)資材担当課長のお名前が中山課長となっているのは、山中課長の誤りです。お詫びして訂正いたします。

## 素材・森林バイオマス資源 流通コーディネート事業

### 集成材用丸太(B材)需給に関する情報交換会

平成二十三年一月二十日(木)、岩手県雫石町の(株)川井林業雫石工場会議室において、素材・森林バイオマス資源流通コーディネーター

のラミナ(挽き板)を製造し、宮古市川井の(株)ウツティかわい集成材工場へ送っている。

事業の「集成材用丸太(B材)需給に関する情報交換会」が開催された。同工場ではA材とB材を原料として構造用集成材の材料とな

る。今回は木材需要側として川井林業澤田社長(ウツティかわい社長を兼務)、小野寺開発部長、花館宏範総務課長に出席頂き、供給側からはN J素流協組合員十五名が出

席した。また指導機関として、岩手県盛岡広域振興局林業振興課伊藤課長に同席願った。

開会にあたりN J素流協下山理事長は、「森林・林業再生プランで目標とされている木材自給率五〇％を達成するには、今の倍以上の材を出さなければならぬ。そうするとA・B材だけでは足りずC・D材まで使わなければならないことになる。現在全国素材生産業協同組合連合会の下、N J素流協は全国の組織が国の予算でコーディネート事業を実施し、材をどう使

い流通させるかを検討している。この趣旨をご理解の上意見交換して頂きたい」と挨拶した。

盛岡振興局伊藤課長は、「川井林業は単独の工場としては国内最大級の規模であり、今日のN J素流協との懇談会は素晴らしい機会である。林地未利用材の利用はなかなか進まないのが現実だが、県では素材供給量を増大させることで林業を振興させようと考えている。今日の協議の結果を大いに参考にしたい」と挨拶した。

報告、協議内容は以下の通り。



▽川井林業硝石工場への納入状況及び納入規格（事務局より）

N J素流協からの納材は平成十九年三月の開始以来年々増大しており、今年度は一万七〇〇〇m<sup>3</sup>になると予測している。以前は丸太規格が合板工場と違っていたが、現在では同じにして頂いている。また今般アカマツを原料とした集成防腐・防蟻処理土台製品を開発、昨年十一月下旬からアカマツの受入が開始された。また有料ではあるが荷下ろしの依頼も可能になったので、事前に連絡の上利用して欲しい。

▽需要側からの情報提供（川井林業澤田社長の話）

現在の我が国の新築住宅着工戸数は年八〇万戸でその半分強が木造、さらに木造住宅の木材の七割が集成材となっている。部材ごとの割合は、平角では六〇%が集成材、残りが無垢材とドライビーム（木造住宅用の米松構造用乾燥材）、土台は二七〜三〇%が集成材である。ウツティかわいでは原木換算で年間二〇万m<sup>3</sup>の木材を使用し、約七万一二〇〇m<sup>3</sup>の集成材を生産している。北東北の木材の多くは構造用集成材に加工されて中央のハウスメーカーに出荷されている。今後はいかに安定供給していくかが鍵であり、木材がうまく回る仕組みをつくっていききたい。

▽供給側からの情報提供（各組合員からの報告）

今冬は雪で苦勞しており、生産低下もやむを得ない。／国有林請負に入っており手山生産が進まない。／N J素流協の納入枠以外にも地元で世話になっている製材工場等に納めている。／道路が凍る冬季には普段入れないところまで

トラックを上げて作業効率を上げるよう工夫している。

▽質疑応答

【質問】（生産者）

A材、B材の仕分けを具体的に教えて欲しい。

【回答】（川井林業）

トビクサレのない材がA材、黒く変色している部分が、一材面の木口のみのはB1、二材面の木口に出ているものはB2で、それ以上になると受け入れ難い。また変色が末口に一箇所、元口に二箇所現れているものはB2としている。腐った材は駄目だが、材の繊維自体がしっかりとあれば軽微な変色は問題ない。黒芯は可。

【質問】（生産者）

川井林業ではアカマツを買ってもらえるのが利点だが、アカマツは伐採時期等に制限があるので扱うのが難しい。

【回答】（川井林業）

夏でも伐採後放置せずに二週間以内に納入してもらえば青変※の問題は起こらない。松くい虫汚染区域の移動制限などは条例を見ながら対処してもらいたい。

（※今号「樹木の病害虫」参照）

【質問】（生産者）

川井林業は良い材しか買わない、曲がりに厳しいというイメージがあるが？

【回答】（川井林業）

B材込みでも、集成材の内側の層に使う等うまく処理することはできる。曲がりの規格も合板と同じなので、多少曲がっていても四mで納入して欲しい。また、もしC材でも径級一四cm以上で量がまとまればラインを別にして利用できる。例えばC材だけトラック単位で納入してもらおうことも、やり方としては考えられる。

情報交換会の後は、澤田社長と花館課長の案内で工場内を見学した。硝石工場では樹皮などを燃料とする木質バイオマスボイラーの木材乾燥機を備えている。化石燃料ボイラーに比べ年間五〇〇トン以上の二酸化炭素を削減できるとして、排出量取引に係る国内クレジットの認証を受けている。

# 一葉

## 樹木の病害虫 (10)

### 青変被害

この被害は、樹木の幹内部(材)が青あるいは黒く変色し、評価が著しく低下する被害である。被害はアカマツ、クロマツ、カラマツ、エゾマツなど針葉樹の他、ブナ、ミズナラ、コナラなどの広葉樹にも発生する。経験的に春から夏に伐採した場合に多く発生し、秋冬伐採ではほとんど発生しないことが知られている。

岩手県においては、アカマツ資源の有効活用が喫緊の課題であるが、春夏の伐採木に本被害が発生することから、通年出荷の大きな障害となっている。岩手県林業技術センターでは、その対策技術の開発に取り組んできたが、その成果を簡単に紹介する。

この被害は青変菌と総称される菌類によるもので、菌糸が木材細胞の中に侵入して(写真5)養分を吸収し、時間の経過と共に青あるいは黒く変色する。

菌が木材内に侵入する経路は、

丸太木口への付着(写真1、2)

と樹皮から食入するキクイムシ類による持ち込み(写真3、4、6)があり、後者の影響が強い。

防止対策として次のことがあげられる。

① 秋・冬伐採

一〇月以降から冬季間に伐採すれば、被害の心配は無い。ただし、3月末以前に製材・乾燥する必要がある。

② 春・夏伐採

二週間以内に製材・乾燥するか、薬剤を散布する。ただし、薬剤の有効期間は、春・秋で三ヶ月、夏で一ヶ月程度である。

③ 薬剤防除

防カビ剤と殺虫剤を併用すれば効果が得られる。(写真7、8)

この文と写真は、岩手県林業技術

センター新技術解説シリーズ20「ア

カマツの青変菌被害の防止技術」(岩

手県林業改良普及教会刊行)を参照

したものです。

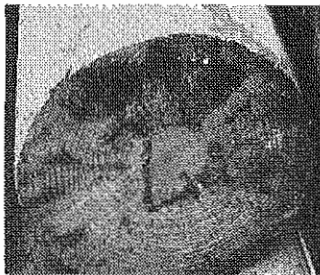


写真1 木口の青変被害

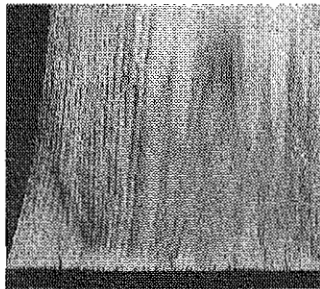


写真2 木口から5~30cmの範囲が変色

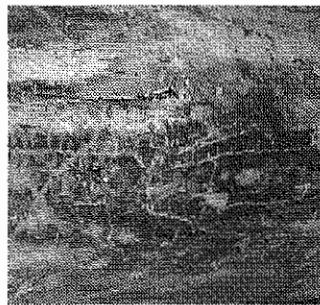


写真3 虫の食跡から入った被害

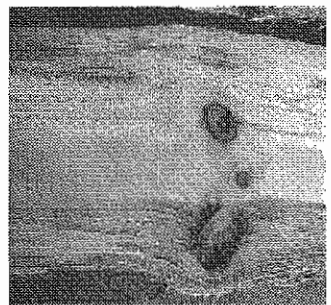


写真4 幹の中心部まで広がる

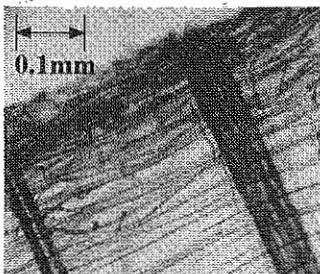


写真5 材の組織内に入った菌糸 (細く曲がった線)

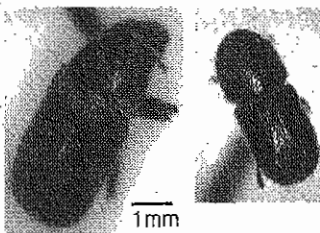


写真6 菌を持ち込むキクイムシ類  
左; マツノキクイムシ  
右; マツノムツバキクイ

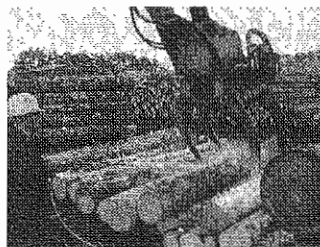


写真7 薬剤散布作業

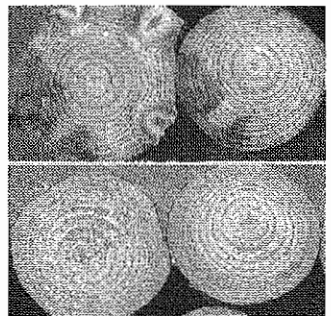


写真8 薬剤の効果  
上段; 無散布  
下段; 散布

# その油断 緑の森を 火の海に

三月一日から五月三十一日は岩手県山火事防止運動月間です。三月から五月は乾燥した気象のため林野火災が起こりやすく、過去に大規模な山火事が数多く発生しています。森林所有者や事業者同士、またハイカーなど一般の入山者にも注意を呼びかけ、林野火災の未然防止に努めましょう。

**作業道散策**

10

ロシアの一部で繁殖し、冬鳥として日本全土に飛来する。集団で行動し、キレンジャクと一緒に群れを作っていることもあり、時に

**ヒレンジャク(緋連雀)**

体長一八cmで、スズメより大きいがツグミよりは小さい。体全体が灰色っぽく、過眼線が黒く怖い顔に見える。頭頂の羽(冠羽)に特徴があり、興奮すると逆立って益々怖い顔になる。(写真1、2)

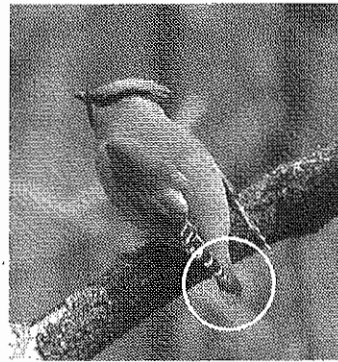


写真1 ヒレンジャク 尾羽の先が赤色

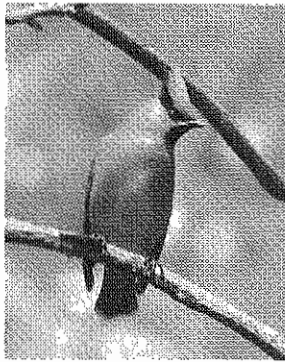


写真2 興奮すると冠羽が逆立つ

尾羽の先が鮮紅色で、ここが黄色いキレンジャクとの区別点である。(写真3)

ロシアの一部で繁殖し、冬鳥として日本全土に飛来する。集団で行動し、キレンジャクと一緒に群れを作っていることもあり、時に

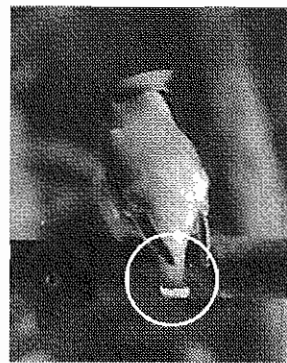


写真3 キレンジャク 尾羽の先が黄色

一〇〇羽以上の群れになる。

鳴き声は小さく、「チリリリ」と鳴く。渡ってきて間もない頃は山地で木の実を食べるが、里山、果樹園、市街地近くの林に来て、リンゴや庭木の実を食べる。庭先に置いたリンゴを食べに来ることもある。春になると、飛んでいる虫を捕食する。

好んで食べるヤドリギの実は、果肉がネバネバしており、種子とともに排泄される。これがキレンジャクが飛んで行った先の樹木にくっつき、根を出す。ヤドリギはこう

して生息地域を拡大する。

「宿り木の玉」は、樹木にとっては大変迷惑だが、ヨーロッパではクリスマスの飾りとなり、この下では誰にキスしても良いなどといわれている

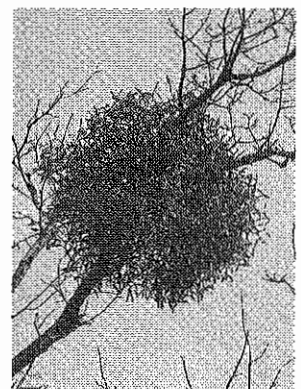


写真4 宿り木の玉

**冗談欄 元旦は一年の始まり**

毎年「よし！今年こそ〇〇をす

るぞ」と誓いを立てるのだが、三日坊主に終わってきている。

三日坊主に終わらせないコツは、SMART(スマート)な目標にすることと言う。

SMARTとは、次の項目を英語にしたときの頭文字を並べたものである。

- ①簡単にする
  - ②なるべく数字に表す
  - ③ちよつと頑張れば達成できるものにする
  - ④成果が測れるものにする
  - ⑤期限を区切ったものにする
- の5項目である。
- そして、生き方を少しずつよくするコツは、「読む。会う。続ける。」の三つである。

良書を読み、多くの色々な人に出会って、色々な話を聞き、毎日コツコツでよいから良い習慣を続け

ることである。

毎日、昨日より〇・二%だけ向上させると、なんと一年後には二倍になるのである。

でも、高齢になるとやるのが少なくなり、朝食が終わったら「朝食は何にするの?」「昼食が終わったら「夕食は何にするの?」と聞いてしまう。しまいは奥さんから「食えること以外に楽しみは無いの?」と聞かれ、つい「昼寝とテレビ」と答えてしまう。

「貧乏暇あり」なのである。これではいけない。薄くなってきた頭をかきながら「ハゲアタマの法則」で行動しようと思いを立てた。

「ハツラツとげん気にあかるくたのしくまあるく」なのである。

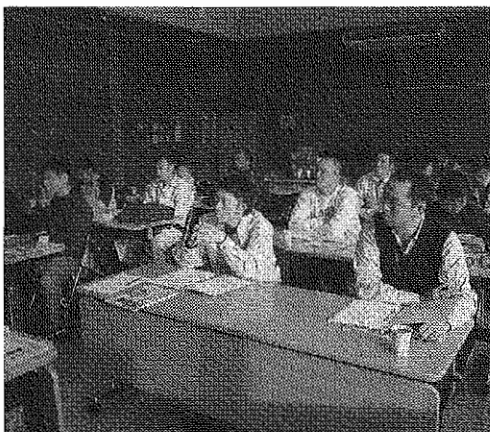
平成23年1月分の販売実績

- 1 合板用出荷量を前月と比較すると、スギが約370m<sup>3</sup>増加、カラマツが約1,350m<sup>3</sup>減少、アカマツが約430m<sup>3</sup>増加し、全体では約570m<sup>3</sup>減少している。昨年同月と比較すると、スギが約480m<sup>3</sup>増加、カラマツが約1,470m<sup>3</sup>減少、アカマツは約2,360m<sup>3</sup>増加し、全体では約1,430m<sup>3</sup>増加している。工場別ではホクヨープライウッドが前月比較で約1,040m<sup>3</sup>増加、昨年同月比較では約2,520m<sup>3</sup>増加、北日本プライウッドは前月比較では1,250m<sup>3</sup>減少、昨年同月比較では約1,180m<sup>3</sup>減少となっている。なお、これら合板用出荷量のうちシステム販売取扱量は前月より約200m<sup>3</sup>減少している。
- 2 その他（合板用以外）の出荷量は前月より約310m<sup>3</sup>増加、昨年同月とはほぼ同量である。
- 3 今年度の年間計画量に対する10か月あたりの出荷量の割合（目標達成率）を83.3%とすると、今月の合板用出荷及び全体出荷実績は、計画数量を7.2~11.1ポイント上回る進捗状況となっている。

(m<sup>3</sup>)

樹種	長級 (m)	販売先				計	今年度累計				
		合板用			その他		合板用	その他	計		
		ホクヨー プライ ウッド(株)	北日本 プライ ウッド(株)	その他						小計	樹種別割合 (%)
スギ	2.0	2,956	2,890	94	5,940	1,157	11,555	63,827	48.9	14,571	116,185
	4.0	2,857	1,602		4,458			37,788			
	計	5,813	4,492	94	10,398			( 7,660)			
カラマツ	2.0	2,758	1,232		3,989	109	5,815	56,122	40.0	2,023	85,166
	4.0	1,166	551		1,717			27,021			
	計	3,924	1,782		5,706			( 4,586)			
アカマツ	2.0	2,268	92		2,360	383	3,434	19,078	10.7	699	23,025
	4.0	664	26		690			3,248			
	計	2,932	118		3,050			( 0)			
その他針						24	24	( 62)	0.0	181	243
広葉樹		60			60	13	73	637	0.3	905	1,542
合計		12,729	6,392	94	19,214	1,686	20,901	( 12,307)	100.0	18,378	226,161
目標達成率(%)								94.4		61.3	90.5
計画量								220,000		30,000	250,000
バイオマス用針葉樹チップ材 (単位:トン)											169.3

長級2.0には2.1を含む、( ) はシステム販売取扱量(内数)



林業経営技術  
研修会(後期)を開催

一月二十四・二十五日、岩手県林業技術センターを会場として、N J 素流協の林業経営技術研修会(後期)が開催され、組合員事業体の後継者世代十三名が受講した。今回の講座一日目は、森林・木材の評価(講師 岩手県森連木材販売グループ長田口清治氏)、木材材質に及ぼす森林病虫害と回避法(樹木医佐藤平典氏)、経営に活かす財務管理と経理知識(N J 素流協小野寺部長 高橋次長)、二日目は一般森林技術(N J 素流協外館

部長)、森林林業再生プランの骨子(同高橋常務)の講義があった。さらに二日目には岩手県矢巾町の(旬)二和木材工場、同県石町(旬)川井林業硝石工場の見学も行われた。

N J 素流協組合員  
全素協中央研修会に出席

一月十一日、東京都秋葉原で開催された全国国有林造林生産業連絡協議会及び全国素材生産業協同組合連合会共催の「新たな森林・林業施策の中央研修会」にN J 素流協組合員も青森、岩手からそれぞれ出席し、林野庁次長以下担当部局の職員による講演を聴講した。林野庁は昨年十一月「森林・林業の再生に向けた改革の姿」を発表、現在予算実行と法律改定に向けた作業が進められている。また国有林の間伐事業における複数年契約(市場化テスト)の導入が検討され、実施要項案が発表された。各講師からは政府案に対する業界側の積極的な参画を求むとの言葉があった。